

橋梁 100 周年を活かしたにぎわい創出

北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

はじめに

金沢市街地には浅野川^{あさのがわ}と犀川^{さいがわ}という2本の川が流れており、前者は女川^{おんながわ}、後者は男川^{おとこがわ}という愛称で金沢市民に古くから親しまれている。地形的には、ちょうど市街地を挟むように2本の川が流れ、河岸段丘を形成していることから、河川を横断する橋が交通の要衝となっている。その中でも、加賀藩祖である前田利家が1594年に架橋したといわれているのが、初代の浅野川大橋と犀川大橋である。



図1 浅野川大橋・犀川大橋 位置図

最初の架橋からは、洪水や氾濫による流出等により何度も架け替えが行われており、1922年の金沢洪水でいずれも流失したものの、浅野川大橋は同年1922年、犀川大橋は2年後の1924年に架け替えられたものが、現在もその姿を残している。

浅野川大橋は2022年、犀川大橋は2024年に架橋から100年の節目を迎えることから、百寿祝祭の取組みを進めており、その内容について紹介する。



写真1 浅野川大橋



写真2 犀川大橋

1. 百寿会^{ももじゅかい}の設立

100年にわたり多くの人々の生活や行動を支えてきた浅野川大橋、犀川大橋に思いをはせ、その功労を

たたえるとともに市民・県民のシビックプライドを醸成し、長く後世に伝えていくこと、そのための情報発信やイベントの実施を行うことを目的に、国・県・市・地元団体等をメンバーとする「浅野川大橋・犀川大橋百寿会」（以下、百寿会）を2022年5月に設立した。

百寿会では、様々な主体が一体となって取組みを進めていけるようロゴマークを作成したほか、橋について紹介する特設HPを設けた。特設HPには、橋の基本的な情報や歴史・沿革、メンテナンスの取組み等の情報を掲載している。

また、2022年に100周年をむかえる浅野川大橋については、フォトコンテスト、絵画コンテスト、思い出写真・エピソードの募集といった取組みを進めるとともに、メインイベントとして、「浅野川大橋百寿祭」を2022年10月15日（土）に開催した。

2. 浅野川大橋百寿祭

浅野川大橋百寿祭は、国道159号橋場交差点～国道359号ひがし茶屋街交差点を歩行者天国にして実施した。具体的には、10時～11時15分の時間で、浅野川大橋上でのステージイベントと、地域のお店やキッチンカーの出店等が行われた。一部の展示や体験は、河川敷沿いの公園に場所を移して14時まで実施した。

ステージイベントは、地域の小学校の生徒によるダンスを皮切りに、浅野川の清掃活動等を行っている「女川に菜の花油の灯をともし会」による女川踊り、浅野川大橋100周年記念プレートの除幕、渡橋式、加賀鳶梯子登り演技が行われた。渡橋式については、100年前の渡り初めの際と同様に、これからの100年の安心・安全を祈念し、三世代夫婦に参加いただいた。



写真3 地元小学生によるダンス



写真4 女川踊り



写真5 渡橋式



写真6 加賀鳶梯子登り演技

また、車道上をオープンスペースとして、地域のお店やキッチンカーの出店、人力車の受付、地元大学生のストリートダンス等も行われ、多くの人に楽しんでいただいた。あわせて、これまでの100年を振り返るとともに、これからの100年のことも見据えていきたいという思いから、金沢市内のボランティアガイドである「まいどさん」による歴史ツアーや、近年、橋梁の維持管理にも用いられているドローン操縦体験、インフラDXに関する動画・パネル展示、また、一般社団法人日本橋梁建設協会や一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会といった団体によるPR活動もあわせて行った。



写真7 キッチンカーの出店



写真8 地元大学生のストリートダンス

当日は好天に恵まれ、推定3,000人の方にご来場いただきました。浅野川大橋の100周年を多くの方に知っていただけるとともに、地域の活性化にも寄与することができた。

3. 浅野川大橋100周年記念コンテスト・特別展の開催

浅野川大橋が100周年をむかえることを多くの市民に知っていただく機会として、Instagramを活用したフォトコンテストと絵画コンテストを開催した。絵画コンテストには中学生以下のジュニアの部と高校生以上の学生・一般の部を設けた。2022年7月11日から10月31日の期間で募集を行った。フォトコンテストには141点、絵画コンテストジュニアの部には108点、学生・一般の部には31点の応募をいただいた。応募作品について、有識者を交えて審査を行い、表彰作品を決定した。



図2 フォトコンテスト最優秀賞



図3 絵画コンテスト最優秀賞
(学生・一般の部)

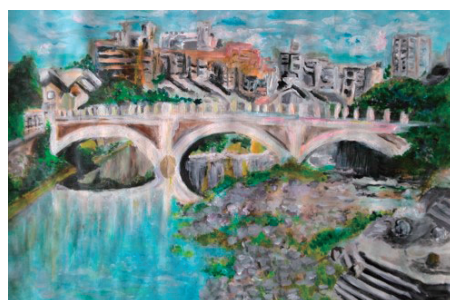


図4 絵画コンテスト最優秀賞
(ジュニアの部)

架橋時の渡橋式から、ちょうど100年後にあたる2022年12月14日に表彰式を開催した。受賞者からは受賞の喜びの声や、浅野川大橋への思い等を直接うかがうことができ、貴重な機会となった。また、渡橋式からちょうど100年後に実施したことでニュースバリューがあがり、報道機関にも大きく取り上げていただいた。



写真9 表彰の様子



写真10 表彰式記念撮影

表彰式翌日の12月15日から12月25日にかけて、表彰作品や橋の歴史等を紹介する特別展も開催し、約230名の方に来場いただきました。



写真11 特別展での作品掲載



写真12 架橋時の図面展示

おわりに

取組みを進める中で、多くの市民の方にお話しさせていただいたが、浅野川大橋・犀川大橋がまもなく100周年を迎えるということは知らなかったという方が多かった。一方で、両橋にまつわる思い出話など聞かせていただき、市民の愛情の深さも知ることとなった。そういった中で今回、百寿会として取組みを進めることで、多くの市民に100周年を認識し、より愛着を深めてもらうことができたと感じている。来年の犀川大橋100周年に向け、引き続き地域一体となって取組みを進めていきたい。

<参考>

浅野川大橋・犀川大橋100周年記念HP

